



# HOKKAIDO UNIVERSITY

|                  |                                                                                                   |
|------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Title            | 平成28 年度北海道大学教育ワークショップの取り組み                                                                        |
| Author(s)        | 山本, 堅一; 細川, 敏幸; 山田, 邦雅 他                                                                          |
| Citation         | 高等教育ジャーナル : 高等教育と生涯学習, 24, 161-166                                                                |
| Issue Date       | 2017-03                                                                                           |
| DOI              | <a href="https://doi.org/10.14943/J.HighEdu.24.161">https://doi.org/10.14943/J.HighEdu.24.161</a> |
| Doc URL          | <a href="https://hdl.handle.net/2115/65039">https://hdl.handle.net/2115/65039</a>                 |
| Type             | departmental bulletin paper                                                                       |
| File Information | 2414.pdf                                                                                          |



## A report on the 2016 Hokkaido University Workshop on Education

Kenichi Yamamoto,<sup>1)\*</sup> Toshiyuki Hosokawa,<sup>2)</sup> Kunimasa Yamada,<sup>2)</sup>  
Jun Kamen<sup>2)</sup> and Naoyuki Mikami<sup>2)</sup>

1) Center for Teaching and Learning, Institute for the Advancement of Higher Education, Hokkaido University

2) Institute for the Advancement of Higher Education, Hokkaido University

## 平成 28 年度北海道大学教育ワークショップの取り組み

山本 堅一<sup>1)\*\*</sup>, 細川 敏幸<sup>2)</sup>, 山田 邦雅<sup>2)</sup>, 亀野 淳<sup>2)</sup>, 三上 直之<sup>2)</sup>

1) 北海道大学高等教育推進機構高等教育研修センター

2) 北海道大学高等教育推進機構

*Abstract* — Hokkaido University began holding an annual two-day workshop on education for the faculty members in 1998. Since 2007, this workshop has been implemented twice a year, and its target participants have been young faculty members. Since last year, we have held three separate workshops. The purpose of this report is to explain what was done in the 2016 workshops, and to explore the challenges that remain to improve the workshops.

The first workshop in June had 21 participants from all over Hokkaido University, the second one in September had 21 participants from Hokkaido University and 6 participants from other institutes of higher education, and the last one in November had 15 participants from Hokkaido University and 1 participant from another institute. This year's main theme was Active Learning. Each workshop mainly consisted of three sessions about the planning of courses, including lectures and group discussions, and other sessions.

The main contents of this report are an overview of the three workshops and the results of questionnaires collected after each workshop.

(Accepted on 24 February, 2017)

---

\*) Correspondence: Center for Teaching and learning, Institute for the Advancement of Higher Education, Hokkaido University, Sapporo 060-0817, Japan

E-mail: yamamoto@c@high.hokudai.ac.jp

\*\*) 連絡先：060-0817 札幌市北区北 17 条西 8 丁目 北海道大学高等教育推進機構高等教育研修センター

## 1. 北海道大学教育ワークショップの目的

北海道大学では、1998 年以来、新任教員研修の一環として全部局教員を対象とした「北海道大学教育ワークショップ」という研修を行っている。この研修は、全学教育科目の授業デザインをグループ活動によって行うことで、授業の設計方法とシラバスの書き方について身につけることが主な目的である。

本ワークショップは、2007 年度以降それまでの年 1 回から年 2 回の開催となり、一人でも多くの新任教員（北大に着任後 5 年以内の教員）が研修に参加できるようにされてきた。これまでこの研修の企画運営を担ってきたのは高等教育推進機構の研究部門であったが、2015 年 4 月に高等教育推進機構に設置された高等教育研修センターに実施主体を移した。このことと、教育担当理事の意向もあって、2015 年度からは年 3 回実施することとした。2016 年度も引き続き 3 回実施し、昨年度同様 2 回は学外での宿泊型、1 回は学内での通い型とした。

2016 年度のテーマは「アクティブラーニング型授業の設計」とした。第三期中期目標・中期計画に掲げられているアクティブラーニング型授業の増加に少しでも寄与することを意図している。

## 2. 日程とプログラム

2017 年度に開催した本ワークショップの日程は、第 29 回が 6 月 17, 18 日、第 30 回が 9 月 14, 15 日、第 31 回が 11 月 18, 19 日であった<sup>1)</sup>。プログラムは 3 回とも異なるが、以下では第 29 回のプログラムを示す。

### 6 月 17 日（金）

|       |                                   |
|-------|-----------------------------------|
| 8:30  | 受付開始（高等教育推進機構 情報教育館 3F スタジオ型中講義室） |
| 8:45  | 開会・挨拶                             |
| 9:00  | バス出発【オリエンテーション（FD の意義、自己紹介）】      |
| 10:00 | 北広島クラッセホテル到着                      |
| 10:10 | オリエンテーション                         |
| 10:50 | レクチャー 1「講義題目・目標の設定」               |

|       |                         |
|-------|-------------------------|
| 11:20 | グループ討論「講義題目・目標の設定」      |
| 12:20 | 昼食休憩                    |
| 13:20 | 中間発表「講義題目・目標の設定」        |
| 13:50 | 参加者のシラバス校正作業            |
| 14:15 | ディスカッション「授業に関する Q & A」  |
| 15:00 | 休憩（シラバス提出）              |
| 15:20 | レクチャー 2「授業方略」           |
| 15:50 | グループ討論「授業方略」            |
| 17:20 | 中間発表「授業方略」              |
| 18:00 | 夕食休憩                    |
| 19:00 | 参加者のシラバス返却              |
| 19:00 | エクセレント・ティーチャー受賞経験者による講演 |
| 19:45 | 懇親会                     |

### 6 月 18 日（土）

|       |                  |
|-------|------------------|
| 6:30～ | 各自朝食             |
| 8:30  | 各グループ修正作業        |
| 9:00  | 参加者のシラバス再提出      |
| 9:00  | レクチャー 3「成績評価」    |
| 9:30  | グループ討議「成績評価」     |
| 10:30 | 休憩               |
| 10:45 | 作成したシラバスの発表      |
| 11:45 | 講評               |
| 11:55 | レクチャー 4「教育倫理」    |
| 12:05 | 参加者のシラバス返却       |
| 12:05 | 修了証書授与式          |
| 12:20 | バス出発【参加者・世話人の感想】 |
| 13:30 | 札幌駅到着、解散         |

本ワークショップは、授業設計において重要な「目標・方略・評価」の 3 つについて、それぞれレクチャーと討論そして全体発表というセッションで構成されている。その他、すべてのプログラム終了後に行う教育倫理に関するショートレクチャーは必ずプログラムに含まれているが、他のセッションは毎回プログラムの見直しによって調整し変更している。今年度は、ディスカッション「授業に関する Q & A」は 3 回とも実施し、夕食後のエクセレント・ティーチャー受賞経験者による講演は第 29 回と第 31 回の 2 回実施した。

第 30 回は学内開催のため、夕食の前に 1 日目のプログラムが終了する。昨年度は 1 日目終了後の懇親会は行っていないが、参加者アンケートで開催を望む声があったため、今年度は行っている。

昨年度の第 27 回から参加者の動機付けのために

オリエンテーションの時間を 30 分取っていたが、今年度はその時間を毎回 40 分に増やしている。第 29 回では講義題目・目標設定の後に「授業に関する Q & A」セッションを行ったが、第 30 回から講義題目・目標設定と授業方略のセッションが終わった後の夕食前にこのセッションを移動した。また第 30 回からは、授業方略の中間発表が終わった後でふり返りと修正の時間を 30 分取ることにした。

### 3. 参加者の属性

本ワークショップは新任教員研修と位置づけられているが、着任後 5 年以内としているため必ずしも大学教員になって 5 年以内の人だけが参加するようにはなっていない。以下に各回の参加者属性を示す。

年齢

|        | 20 代  | 30 代  | 40 代  | 50 代  |
|--------|-------|-------|-------|-------|
| 第 29 回 | 4.8%  | 81.0% | 14.3% | 0.0%  |
| 第 30 回 | 11.5% | 57.7% | 23.1% | 7.7%  |
| 第 31 回 | 0.0%  | 81.3% | 6.2%  | 12.5% |

性別

|        | 男性    | 女性    |
|--------|-------|-------|
| 第 29 回 | 71.4% | 28.6% |
| 第 30 回 | 76.9% | 23.1% |
| 第 31 回 | 87.5% | 12.5% |

大学教員経験年数

|        | 1 年未満 | 1 年以上<br>3 年未満 | 3 年以上<br>5 年未満 | 5 年以上 |
|--------|-------|----------------|----------------|-------|
| 第 29 回 | 38.1% | 23.8%          | 19.0%          | 19.0% |
| 第 30 回 | 23.1% | 46.2%          | 7.7%           | 23.1% |
| 第 31 回 | 37.5% | 43.8%          | 6.2%           | 12.5% |

### 4. 参加者の感想

全プログラム終了後に行っているアンケートで、「本ワークショップの良かった点や改善すべき点など」を自由記述で尋ねており、以下のとおり回答があった。

#### 第 29 回

1. 前半の時間配分が少し厳しすぎる。持ち寄りの懇親会は良かった。
2. グループ作業することで合意点をみつけることのコツみたいなのが分かりました。授業の仕方は大変参考になりました。世話人のみなさまお疲れ様でした。ありがとうございました。
3. グループ構成人数は 4 人くらいがベストと感じたが、発表件数が増えてしまうので 6 人でも仕方ないと思います。ありがとうございました。
4. 他の教員と交流できた点や授業の工夫等に関する具体的な事例を知ることができたので良かったです。
5. 実際に 1 からシラバス作成する作業を行うことで、作成にあたって注意すべき点を学ぶことができた。また並行して自分のシラバスを添削して頂いたことで、より具体的に考えることができた。
6. 実際の具体的な例を示して下さっていたため、考える際の助けになりとても良かった。
7. 他の部局の方と交流できたこと
8. good. 具体的にアクティブラーニングを進めるポイントが分かったこと。成績評価の方法論を学べたこと。魅力ある授業を構築する手段を学べたこと。
9. 他分野の研究者との交流ができた点が良かった。
10. シラバス添削が本人のシラバスでないと、学びが少ないと思った。負担は大きいですが、自分なりに作成したものを対象としてもらったほうがありがたい。
11. 一般目標、到達目標の設定と同時に授業方略も同じ時間に（時間をあけずに）設定できたら設定しやすかったかもしれないと思った。（時間配分の関係で難しいかも知れませんが…）
12. 所属部局以外の人たちと交流できてよかった。シラバスの目標の意味や書き方について詳しく学ぶことができてよかった。最近よく聞くアクティブラーニングについて学べてよかった。
13. スケジュールがかなりキツイと思いました。とても内容が濃く、自分にとってプラスになるワークショップだったので、もっと時間をかけ

て取り組みたかったです。

14. エクセレント・ティーチャーの講演内容は実践的な内容で非常に参考になった。
15. 自分が使用する（であろう）シラバスの添削を、講演を聞いた直後に行えたので、理解しやすかったしアクティブラーニングの有効性も学ぶことができた。
16. エクセレント・ティーチャーによる講演会は良かったです。
17. エクセレント・ティーチャーの講演は非常に興味深く、参考になりました。また、成績評価等これまで知らなかった手法について教授頂けて助かりました。
18. 全体的には良かったと思いますが、ややアクティブラーニング（一般教育演習）に偏っていた気もします。（実際に行う教員は限られていると思うので）
19. 宿泊はなくても良いのでは。

#### 第30回

1. ・グループディスカッションでは楽しみながら検討することができました。・教育目標分類学の動詞と、思い描いた目標を一致させるのが難しいと感じた。
2. グループワークにあたり、イントロがとてもスムーズで、プロを感じました。実際の授業では、とても専門的なもののため、どのように応用しようか考えているところです。
3. シラバス作成に当たって学ぶ手順は適切であった。
4. 今まで漠然と読んでいたシラバスの体系について理解できました。これまでは、専門科目の教育が主でしたが、少し広い視野を持って、教育に取り組める様になればと思います。あと、英語教材は必要と思います。
5. 本来なら自分が授業を担当する前に学んでおくべきだったことだが、到達目標と成績評価、授業方略の整合性をとることの重要性（必然性）をよく理解でき、大変勉強になりました。ありがとうございました。
6. ・普段考える機会が少ない内容を教えてもらいとても良かった。・アクティブラーニングの欠点も教えてもらいたい。
7. ・グループワークの時間が足りないと1日目は感じましたが、制約があるほうがパフォーマンスが上がると2日目は感じました。・実際にシラバスを作る体験がより実践的に学ぶことができました。次年度のシラバスを検討したいと思います。
8. ・することに対して時間が短い。・作成するもののひな形、テンプレートが統一されていない。フォーマットがあった方がよい。
9. 良かった点：グループでの作業内容 改善すべき点：他グループとの交流
10. 一般教育科目の開講の仕方やシラバスの作り方はとても勉強になった。一方で専門科目に関しては必ずしもそのスキルが適用できない部分もあり専門授業の実践にもう少し沿ったプログラムがあっても良いと思った。
11. たくさんご指導いただきありがとうございました。資料がテキストとして提供していただけたのがとても良かったです。是非参考にさせていただきたいと思います。資料中で先生のスライド資料で、背景が黒いものがあったのですが、書き込みしても見づらかったので、印刷は背景を白くしていただけるとありがたいです。
12. ・講義（シラバス作成も含む）をする際の指針ができ非常に有意義だった。・グループメンバーも良い方ばかりで楽しく刺激的だった。
13. 教育について学ぶことが少なく、シラバスの書き方にいつも自信がなかったのですが、方法を学べて良かったです。
14. ・時間配分がよく考えられていると思いました。・授業に関するQAをもう少し充実させて頂きたい。
15. 学部で行ったワークショップよりも内容や学べることが多くありとても良かった。
16. 講義だけでなく、シラバス作成の演習があって良かった。
17. パワーポイント、白地に黄文字は見えない。字が小さすぎると見えない。
18. ・シラバスの作成方法や授業評価のやり方でこれまで疑問に感じていた点が解決できたと思う。・一方で、授業そのものがアクティブラー

ニングありきだったので、基礎科目に対してどのように AL を導入すれば良いかももう少し詳しく（又は様々な事例）を教えて頂けたら、もっと良かったと思う。

19. 改善すべき：講義（学習方略）のスライドのページ（P22-23）が背景の色が濃く、メモを書きづらい（書いても見づらい）強いていえば懇親会の参加人数がもう少しいてほしかった。良かった点：2日間というカリキュラムだったので、じっくり深く理解でき、グループメンバーとの交流も十分にできた。集合写真をいただけたのも記念になった。
20. 最近の大学教育に関する国の考え方、大学の方針がわかり勉強になった。もう少し時間があってもよかったかも。（丸々2日）
21. ・ Meeting was good in general but a bit long. ・ English section would improve the level of meeting. ・ Inviting speaker with great experience would improve the quality of workshop (staff of university).

#### 第31回

1. 全体的に非常に良かった。参加できて多くのことを学ぶことができた。特に長谷川先生の講演を聞き、印象深かったです。
2. 「講義題目・目標の設定」に関するグループ討議が短く、最も苦勞しました。「教育」に漬かり続ける2日間は非常に充実しており、教育に対するモチベーション向上につながりました。
3. シラバスチェックはもう少し、コメントがほしかった
4. 1. 5分程度の休憩時間を入れてほしいです。  
2. 「形成的評価」に関する p.39 の記述「6. 評価の報告」を訂正・アップデート願います。
5. 1日目はスケジュールがタイトでした
6. 成績評価を先に説明してもらった方が目標を設定しやすかったと思います。
7. ワークショップ全体の内容を全面的に見直した方が良いのではないかと感じた。
8. フィードバックがすぐに得られる点
9. シラバス作成に関し、大変参考になりました。
10. ・ 授業方略はいままで結構いいかげんでした

が、体系的なお話を聞けてためになりました。・総括／形成評価のくだりはもう少しお聞きしたかったです。

11. 宿泊でない方がよい。
12. 泊まりこみでなく、普通に学内でした方が、他の業務とかねやすいです。
13. 架空授業内容への指摘には、意味を感じられなかった。

## 5. まとめと今後の課題

本ワークショップは、昨年度から高等教育研修センターが中心となって検討しており、2年間で6回開催したことになる。それでもプログラムは毎回調整し、どれ一つ同じプログラムはない程に試行錯誤を重ねている。

昨年度同様に本ワークショップへの参加者の動機は「義務的に」が最も多く、毎回50%前後であった<sup>2)</sup>。そのためオリエンテーションの時間を昨年度から10分増やして40分とし、最初にしっかりと動機づけを行った上で研修に入ることと、ショートセッションを2つから1つに減らすことで全体的な時間の余裕を持たせることにした。その結果、「研修時間は適切だった」というアンケート項目に対する回答は、5件法で平均値3.77, 4.19, 3.94と昨年度と比較して悪くない数値であった。

第30回からショートセッションの順番を変更した点とふり返りと修正の時間を追加した点は、参加者のアンケート結果や参加者との話し合いから気づかされて修正したものである。また、第30回は昨年度同様に宿泊型ではなく通い型で行い、夕食の前に1日目を終了としたが、懇親会は希望者を募って開催した。昨年度「他の参加者との交流は十分できた」というアンケート項目に対しては3.06と低い数値を示したが、今年度は4.04と大きく向上した<sup>3)</sup>。

「ワークショップは全体的に満足できた」というアンケート項目に対する回答は、第29回から順に4.57, 4.38, 4.19となり昨年度よりも全体的に高くなっている<sup>4)</sup>。さまざまな要因が考えられるが、引き続き今年度のプログラムをベースに微調整しながら

ら来年度も実施していきたい。昨年度の検討事項として、「レクチャーパート3回（各30分）をビデオ教材にして事前学習を促し、当日はもっと質疑応答の時間を取り入れることなども検討したい」（山本ほか2015）としていたが、実現できていないため検討を続けたい。

来年度の課題の一つとして、シラバスの添削が挙げられる。ワークショップではグループで架空の授業シラバスを作成していくが、それ以外にも自身のシラバスを校正し、世話人が2回にわたって添削する時間を取っている。問題は、授業を担当していない教員への対応と添削の程度である。参加する新任教員の中には授業を担当していない人もいるが、その人は自分が担当できる授業科目のシラバスを校正している（校正するシラバスは全員事前に提出する）。他人が作成したシラバスを校正して添削を受けることに対して、積極的になれないという感情はある程度理解でき、そのような校正を目にすることもアンケート結果で出ることもある。また、添削の基準を設け3、4人の世話人で分担して添削をしているが、世話人によってコメント量に差が生じている。もっと添削して欲しかったという声はアンケートなどを通じてしばしば聞こえてくる<sup>5)</sup>。来年度は世話人全員が全員分に目を通すようにしたい。

最後に、昨年度最大の課題として挙げたワークショップの効果検証については、来年度追跡調査を行う方向で検討している。1日半という時間をかけて研修を行う意義は十分にあると考えている。その効果もさまざまな側面から捉えられるだろう。それらを調査によって明らかにし、更なるプログラムの改善に役立てられるようにしていきたい。

## 注

- 1) 参加人数は、第29回から順に21名（学内13部局から21名）、27名（学内14部局から21名、4他大学等から6名）、16名（学内11部局から15名、1他大学から1名）となった。
- 2) 参加者への事前アンケート結果によると、第29回から順に41%、57%、56%が「義務的に」と答えており、「自分から進んで」参加したと答えているのは18%、5%、19%、「他人に勧められて」と答えたのは37%、29%、19%であった。
- 3) 宿泊型の第29回は4.19、第31回は3.94となった。第30回の懇親会は研修参加者の半数しか出席していないので、懇親会だけが他の参加者との交流を深めるのに役立っているということではない。懇親会を開催してもずっと同じテーブルで最後まで一定の人とのみ交流する人もいれば、積極的に他の参加者と交流する人もいる。
- 4) 昨年度は第26回から順に3.97、3.94、4.25であった。
- 5) シラバス添削に対する満足度のアンケート結果は、第29回から順に3.71、4.15、3.69と他の項目と比較して低い結果になっている。

## 参考文献

山本堅一・細川敏幸・山田邦雅・飯田直弘・三上直之・鈴木誠・木村純・亀野淳（2015）、「平成27年度北海道大学教育ワークショップの取り組み」、『高等教育ジャーナル』23、65-70